

ようこそ先輩 第9回

平成27年2月9日(月)

昭和26年3月卒業生
本校歯科校医

1. **小学校時代の町の様子(店、交通、住居など)をお話してください。(特に、戦争から復興する町の様子で覚えていることがあればお願いします。)**

麻布幼稚園に通っていた頃、この辺りは長くて黒い壁や石の壁、大きなお屋敷がいっぱいありました。坂道を上って通っていました。戦争が始まって甲府に疎開しました。戦争が終わって帰ってくると、麻布小学校の校舎(今の校舎の前の建物)と郵政省、ロシア大使館の建物が残っていたのを覚えています。

2. **どんなことをして遊びましたか。**

遊び場所は焼け跡の原っぱと崖でした。野菜を植える手伝いをしたり、竹馬をつくって遊んだりしました。缶蹴りや鬼ごっこもしました。学校ではドッジボールや手打ち野球をしていました。

3. **学校の授業や先生の思い出をお話ください。
給食の思い出や好きだった献立は何でしたか。**

学校の先生は麻布小の屋上小屋があり、そこに住んでいらつしやったようでした。私たちも家が焼けてしまったので、東京都から小さな家を配給されて住んでいました。給食では粉ミルク(脱脂粉乳)やコッペパンが出ました。当時はそれまで美味しいものを食べられなかったのでも美味しく感じたことを覚えています。鍋を運んでみんなに配ってあげました。お腹いっぱい食べてその後はすぐに遊びに行きました。

4. **学校で遠足はどのような所に行きましたか。
宿泊行事はありましたか。**

上野動物園が開いたというので行きました。開いたというのは、戦争中は動物を処分するというのでライオンや象は殺されてしまいました。戦争が終わり、また動物を集めたのです。また、先生たちが子どもたちに広い世界を見せたい、見せなくてはと思い、いろいろな所に連れていってくれました。相模湖にも電車で行きました。“よせ”という駅だったので覚えています。友だちと「遠足はよせ！」と冗談を言っていました。

卒業式の翌日から二泊三日で京都・奈良に行きました。夜行列車で何時間もかけて行きました。

5. 長い間、母校の歯科校医をやっていて感じることを、今の子どもたちに期待することをお話ください。

また、これからの麻布小学校への願いをお話ください。

今から40年ほど前、みんなのお父さんやお母さんが小学生だった頃、当時の山田校長先生から、子どもたちの歯を診てほしいと言われ、診察することになりました。子どもたちの歯はすごくこわれているのに驚きました。このままでは将来入れ歯か金属を歯にかぶせないとだめになってしまうと思い、養護の先生にお願いして虫歯のある子に黄色い紙(治療が必要)を渡してもらいました。全校児童の半分くらいの子どもに渡しました。歯医者さんにも子どもたちの歯を治してもらおうと思いましたが、「入れ歯や大人の治療で精一杯で子どもまで治療できない」と言われてしまいました。でもあきらめずに「子どもの歯こそ大切なんだ。」と何回も働きかけました。5、6年してやっと理解してくれるようになり、子どもたちの歯の治療に目を向けてくれるようになったのです。その時の子どもたちというのが君たちのお父さんやお母さんです。みんなに「よく歯を磨きなさい！」と言うのは、ちゃんと噛めるということの素晴らしさがよくわかっているからなのです。こういうことは“当たり前”なことです。当たり前なことはちゃんとやらなければなりません。学校だよりも校長先生が書いていらっしゃるね。“当たり前”とは素晴らしい言葉です。

(校歌についてお話してください。)

国旗掲揚も校歌も歌ってはいけないという時代がありました。慶応や早稲田が、一致団結してがんばろう！という思いを込めてそれぞれ校歌を歌い始め、麻布小学校も校歌を歌うようになりました。歌詞の通り白い3階建ての西洋風の校舎ができ、昔は海が見えるほどの見晴らしのよい高台に建っていて、気持ちのよい風を感じることができました。私は先輩たちが知っているこの歌が大好きです。

